

総合実習

目 的

看護チームの一員として看護を実践する中で、看護管理の必要性和専門職としての役割を理解し、自覚と責任感を養う。

目 標

1. 複数の患者を受け持ち、援助の優先度と時間管理を考慮して、安全・安楽に実践できる。
2. 看護チームのチームメンバーおよびリーダーの役割を理解できる。
3. 看護管理・病棟管理の実際について理解できる。
4. 夜間の療養環境と看護師の役割が理解できる。
5. 専門職として倫理的指針をもち行動することができる。

内 容

- 1-1 複数患者の援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性
 - 1) 受け持ち患者の病状変化による治療方針の変更、看護計画の実施と修正
 - 2) 援助実施の優先度の判断
 - 3) 適切な時間での実施
 - 4) 予定されている検査処置の時間の確認と援助実施の調整
 - 5) 適時・適切な人への報告
- 1-2 受け持ち患者の看護計画の実施
 - 1) 計画全体の把握

- 2) 受け持ち患者に必要な複数のケアの実施・評価
- 3) スタッフメンバーの協力を得て実践可能なケアの実施
- 4) 記録・報告
- 1-3 流動的環境の中での実践
- 2-1 その日のリーダーの役割と業務の実際
 - 1) 医師への報告・連絡調整
 - 2) チーム及びスタッフへの連絡調整
 - 3) 病棟外の部門との連絡調整
- 2-2 チームメンバー間の協力・行動調整
- 2-3 多職種との協働
- 2-4 継続看護の必要性
- 3-1 看護管理・病棟管理
 - 1) 病院組織における看護管理
 - ①看護組織としての機能
 - ②看護理念
 - ③看護方式
 - ④病院看護機能評価
 - 2) 病棟管理者の役割と業務の実際
 - ①病床管理
 - ②部下・看護学生の教育指導
 - ③安全管理・物品管理
 - ④他部門との連絡調整
 - ⑤看護部組織の中での報告・連絡・調整の実際
 - ⑥職員の配置
 - ⑦勤務時間管理の実際
 - ⑧職員の健康管理
- 4-1 夜勤体制の業務内容
- 4-2 夜間のチーム間の協力体制
- 4-3 夜間の病棟管理体制
- 4-4 夜間の療養環境
 - 1) 患者の就寝準備
 - 2) 睡眠中の患者の配慮
- 4-5 夜間の患者の安全確保の実際
- 5-1 倫理的視点（看護者の倫理綱領）の意識化

方 法

<学内実習>

ねらい：総合実習の目的・目標・内容・方法を理解する。

1. 実習開始前に行う。
 - 1) 総合実習の目的・内容・方法に関するオリエンテーション
 - 2) 多重課題グループワーク

<院内>

1. 実習開始前週に、病院組織における看護管理の説明を病院内で受ける。
2. 実習初日は、病棟オリエンテーション（チームリーダー・その日のリーダー・メンバーの役割と業務・各勤務帯の業務）及び患者紹介を受ける。
3. 実習中に、病棟管理について説明を受ける。
4. 実習期間中 1 日または半日程度病棟師長と行動を共にし、看護管理の実際を見学する。
5. 実習期間中、その日のリーダーの行動を観察し、リーダーの役割と業務の実際について考察する。
6. 実習期間中は、同じチームに所属する。
7. 指導者の指導監督の下、複数受け持ち患者の看護を実践する。
《対象の目安》
 - 1) 疾病経過・日常生活自立度に差がある患者
 - 2) 同じチーム内の患者
 - 3) 急変の危険性が高い患者は除く
8. 実習指導者の指示・監督の下、1 日のスケジュール作成・援助の実施を行う。
9. 病棟の看護計画に沿った看護を、優先順位と時間を考えながら実施・評価・修正する。
10. 記録は、学生用カルテに記載する。
11. 看護チームの一員として、病棟カンファレンスに参画する。
12. 申し送り前に、患者の状態をその日のリーダーに報告する。
13. 看護場面を通して、安全管理の実際を体験する。

- 1 4. 夜間実習は、患者は受け持たず指導者に同行し、見学する。
- 1 5. 夜間のケアは、患者の安全確保のため指導者の監督の下実施する。
- 1 6. 実習期間中、テーマカンファレンスを実施する。
- 1 7. 実習終了後は、「学んだことと今後の課題」を目標毎に考察し、共通レポート用紙に記載する。

—